# シグマ研究委員会
# 昭和60年度第1回運営委員会議事録

日　時　　昭和60年4月26日（金）13:30～17:30

場　所　　原研本部第5会議室

出席者　　鹿園（委員長，原研）

　　椙山（東北大），中沢（東大原施），中嶋（法大），村田（NAIG）

　　五十嵐，長谷川，原田，松浦（原研）

　　オブザーバ　浅見，中川（原研），川合（NAIG）

配布資料

1. 前回（60.3.12）議事録（案）
2. 59年度シグマ研究委員会旅費使用実績
3. シグマ研究委員会・炉物理研究委員会合同専門家会議
4. First Circular on 1985 Seminar on Nuclear Data
5. 1985年核データ研究会準備会議事録
6. 59年度シグマ特別専門／研究委員会議題
7. 核データ評価WG重核データサブWG
8. シグマ委員会2年報編集委員会議事録（案）

議　事

1. 人　事

原研内の人事異動に絡み，シグマ研究委員会委員長が原田氏から鹿園氏へ交代したことが報告された。

前委員長の原田氏，新委員長の鹿園氏からそれぞれ挨拶があった。なお，シグマ特別専門委員会の主査は，任期内は従来通り原田氏が務めることになった。

2. 前回議事録確認

資料1について確認を行い，一部修正の上承認された。

3. 事務局報告

(1) 委員等の異動：4月1日付けの原研内の人事異動に伴い核データセンターの菊池氏が企画室へ移り，早坂氏が金谷氏に交代したことが報告された。

(2) 59年度の旅費使用結果について資料2により説明があった。

(3) 委員会人事：人事異動に伴い，更田氏，朝岡氏が委員会を辞任したことの報告があった。また，大久保氏（原研）の委員発令手続きを行ったことが報告された。

これに関連して，本委員会に若手を入れて強化したらどうかとの意見があり，秋山氏（東大原施），河原崎氏（原研）を本委員に，また河原崎氏を運営委員に推薦することになった。事務局がまとめて次の本委員会に提案することにした。

4. 日中科学技術協力について

原田氏から3月17日～29日に中国の北京原子能研究院，蘭州の近代物理研究所，上海の原子核研究所を訪問したことについて報告があった。その中で核データに関する日中協力について次の点で意見の一致がえられたとの説明があった。

(1) 情報交換を一層密にする。

(2) 専門家の交流

(3) テーマを決めて共同研究をスタートさせる。

(4) 日中合同の核データセミナーを開催する。

本年の核データ研究会には4名を派遣するとのことであった。

協力協定については(1)原子炉の工学的安全性，(2)ＲＩの生産と利用，(3)廃棄物の処理処分　に加えて核データを追加することを提案して合意がえられたとの話があった。また，科技庁が進めているASEAN諸国との科学者交流制度についても説明があり，今年は20名を受入れるとのことであった。

5. JENDL－3PR1，3PR2の検討会

五十嵐氏から資料3により，JENDL－3PR1，3PR2の検討を行うために炉物理委員会と共同で7月23日～25日に小グループの専門家会議を開催する計画の経緯について説明があり，了承された。

6. 核データ専門部会グループリーダ会合報告

五十嵐氏から，4月18日に核データ専門部会のグループリーダの会合が行われ，その席で部会長が菊池氏（原研）から村田氏（NAIG）へ交代することの申し合せのあったことが報告され了承された。

7. 核データ研究会準備状況の報告

五十嵐氏から，資料5により準備委員会の第1回，第2回会合の概要について報告があった。その中で中国原子能研究院の所長宛に招待状を出したとの説明があった。

なお，準備委員の松浦氏は長谷川氏と交代することになった。また，プログラム案に関して外国からの報告を入れると多過ぎはしないかとの意見や英語でやることの得失についての議論があり，準備委員会で検討することにした。

8. ワーキンググループ活動報告

中川氏から資料7により重核データサブWGの最近の活動状況について説明があった。

これに関連して$^{239}$Pu，$^{241}$PuのJENDL－3用データについて，また，核分裂スペクトル.$\tilde{\nu}$,重要5核種の評価のタイムスケジュールについて質疑応答があった。核分裂断面積の評価に関連して，外国のデータを使うばかりでなく国内での測定を依頼したらどうか等の意見があった。

9. 本委員会の準備

本委員会の開催日時を6月10日(月)11:00～とすることにした。資料6を用いて予定される議題の検討を行い，講演としては中国訪問，Santa Fe 会議学会賞受賞が候補に上り，後で検討することにした。また，単なる報告は核データニュースに載せて済ますことにし，討議する必要のあるものに時間をかけてやることにした。

10. 2年報編集委員会報告

川合氏から資料8により4月19日の会合での討議の概要，今後のスケジュール，原稿依頼予定等について説明があった。

次回は7月19日（金）東海研の予定とした。